

研究業績リスト

氏名：産大 太郎 (SANDAI, Taro) ← 氏名を入れる

A 学術論文（査読付き論文、ジャーナル、学会誌、紀要、プロシーディングスなど）

1	単著	Ssandai, Taro. (2008). The acquisition of English relative clauses. Language Learning, Vol.23, No.4, pp. 455-470.
2 ↑	共著 ↑	産大 太郎・上賀茂 花子 (2013年) フィードバック効果と母音矯正のストラテジー：英語教育学の立場から。 日本英語教育学. 第〇〇巻, 第〇号 PP. 53-60.
		すべての著者名、発行年、タイトル、掲載誌、巻、号、ページ数を記入
古い物 から順 番に番 号を付 ける	単著共著 のいずれ かを示す	

B 学術論文（一般誌掲載論文、エッセイ、依頼論文など）

1	単著	産大 太郎 (2011年) 新学習指導要領におけるオーラルコミュニケーション活動. 英語の教 育. 第〇〇巻, 第〇号 PP. 899-970.
		すべての著者名、発行年、タイトル、掲載誌、巻、号、ページ数を記入

C 書籍（専門書）

	なし

D 書籍（専門書の執筆分担）

	なし
	ページ数や章を示して執筆箇所を特定する

E 書籍（教科書、テキスト、またはその中の執筆分担など）

1	産大 太郎 (2013 年) TOEFL のライティング. 上賀茂 花子 (編) 『TOEFL 教材を使用した英語学習』 第 4 章担当 (pp. 59-88.) ○○社出版.
	ページ数や章を示して執筆箇所を特定する

F 翻訳

	なし

G 編集

	なし

H 口頭発表

1	英語代名詞の格変化とその学習. 2017年8月4日 英語教育学会関西支部年次発表会. コープイン京都.
	タイトル、発表年月日、学会(大会)名、場所を示す

I 招待講演

1	英語帝国主義と日本の外国語教育. 2011年10月18日 全日本中学英語教育友の会 ○○大学.
	タイトル、発表年月日、学会(大会)名、場所を示す